



人権と平和は
21世紀のキーワード

〒720-0061 福山市丸之内1-1-1
TEL 924-6789 FAX 924-6850

jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp

ふくやまピース・ラボ (若者による平和研究活動)

被爆・福山空襲70周年事業として、「平和についてみんなで学び、考え、発信していこう!」を合言葉に、「ふくやまピース・ラボ」事業を行っています。

現在、中学生12人、高校生4人、大学生10人の合計26人が活動しています。

初回のワークショップでは、自分たちが学びたいこと、平和について発信したいことを考え、2回目の5月31日には、霞学区の戦争体験者の証言活動である「福山が燃えた日」に参加し、福山空襲の記憶や戦時下の暮らしぶりなどを聞きました。

今後、広島市で開催される「ヒロシマ青少年平和の集い」への参加や、8月8日の「市民平和の集い」での学習を通じて、若者ならではの平和へのメッセージを発信していくこととしています。



市広報番組「ハッケンふくやま」の収録風景

「福山が燃えた日」リレートーク 私も聞きたい! 話したい!



5月31日(日)、霞公民館と「ふくやまピース・ナビ(人権平和資料館ボランティアスタッフ)」との共催により、霞学区にお住まいの福山空襲体験者3人をパネリストにお迎えし、体験談をお聞きました。会場の旧霞幼稚園には市内外から130人を超える参加者が集まりました。

パネリストからは、「食べ物は芋づるや芋粥ばかり。今の体育館あたりまでずっと芋畑だった」「防空壕に逃げ込んだが、焼夷弾が入って来て顔にやけどを負ったため、芋づるに足を取られながら淀川まで逃げた」「布団を水につけて濡らし、母親にかぶせて芦田川まで逃げた。ちょうど天守閣が東側に崩れ落ちるのを見て、福山はもう駄目だと思った。」などのお話がありました。

会場の参加者からも次々と発言があり、戦後70年を迎え、「今話しておかないと、伝える者がいなくなる」という危機感が伺えました。



「福山が燃えた日」会場風景

戦争に関する体験談や戦時中の資料や写真などをお寄せください!

福山市人権平和資料館では、被爆・福山空襲70周年を迎えるにあたり、真に平和な世の中を築きあげることを目的に、市民のみなさまにわかりやすく戦争の惨禍を伝える冊子を作成する予定です。

お問い合わせ(電話084-924-6789)

企画展予告 「福山空襲と戦時下の暮らし」

(7月23日(木)～8月30日(日)) 開催予定

1970年日活映画

原作/五味川淳平

監督/山本薩夫

キャスト/滝沢 修・芦田伸介・高橋悦史・浅丘ルリ子・中村勘九郎・高橋英樹・江原真二郎・二谷英明・高橋幸治・加藤 剛・岸田今日子・山本学・地井武男・南原宏治・栗原小巻・田村高廣・松原智恵子・丹波哲郎・石原裕次郎・三国連太郎 ほか

あらすじ/ 物語は、新興財閥の五代一族を中心として展開される。日露戦争勝利の後、中国での利権獲得に走る西欧列強の中に日本も参加していた。そして、昭和3年(1928年)の満州においては、関東軍が幅をきかせていた。ついに、昭和6年(1931年)、奉天郊外の柳条溝において、中国人によって列車が爆破されたことを口実に、関東軍は一挙に軍事行動に出た。これが満州事変の始まりである。



『戦争と人間 第1部 運命の序曲』上映

入場無料 (194分)

と き: 7月19日(日) 1回目: 9時30分から
2回目: 14時から

ところ: 福山市人権平和資料館 2階研修室

問合せ: 電話 924-6789 (福山市丸之内一丁目1番1号)